

○● 研修会特集 公開講座 ●○

図書館員の論文作成と雑誌編集の基礎知識

青木 仕

I. 図書館員と論文作成

図書館員による研究は、図書館員が科学的基盤をもった業務を実践するうえで重要な役割を果たすことは言うまでもありません。図書館業務の科学的基盤が確立されることにより、図書館員はより多くの情報に基づいて日常業務の意思決定がはかられますし、このことは利用者へのサービスの向上にもつながると思います。したがって、図書館員として情報の科学的知識大系の構築は、利用者へのサービスの提供に必要な不可欠な要素と考えます。

研究テーマをみつけるには、日頃から日常業務やプライベートな時間のなかで問題意識（なぜ? : 気づき）を持っていることが必要と思います。たとえば、業務上の改善点や今日の医学界のトピックスおよびその動向と課題、図書館情報学での注目されているテーマなどです。

図書館員が文章を書き提示することは、専門職としての必須の条件であるといえます。目に見える形として文章を書き残すことは、実務上の記録としてもその役割は重要と思います。アメリカの心理学者マズローは人間の「欲求五段階説」として①生理的欲求、②安全の欲求、③親和の欲求、④自我の欲求、⑤自己実現の欲求という五つの欲求を唱えています。①②は人間が生きるうえでの根源的な欲求であり、食欲や排泄・物欲や金銭欲をいいます。③親和の欲求

とは他人と関わりたい、集団に帰属したいという欲求です。④自我の欲求とは、自分が集団から認められ、尊敬されることを求める欲求をさし、⑤自己実現の欲求とは、自分の能力を発揮し創造的活動や自己の成長を追求する欲求であると述べています。論文作成は、まさしく⑤の「自己実現の欲求」に当たり、そして執筆は自分が生きてきたというアイデンティティーにもつながる行為であると思います。そのため、論文作成はハードな仕事であり、常に生みの苦しみが伴います。論文は、人に読んでもらうために執筆するものだというを常に念頭におき、平易な文章で一つのセンテンスをできるだけ短く書くように心掛けるべきだと思います。そして、論文を書くという行為は、目標を持って地道に継続していききたいものです。書き上げた原稿は、投稿する前に必ず身近な人に一度読んでもらうことが必要でしょう。ここに論文を書く前に読んでおきたい参考書を挙げておきます¹²⁾。

この章の最後に、筆者が神経科学分野におけるコア・ジャーナルを2ステップ・マップにし提示したものを紹介します(図1)³⁾。2ステップ・マップは、Narinら⁴⁾によって提唱され、作成方法はJournal Citation ReportsのCiting Journal Listingを用いて、対象誌が上位1、2位で引用している雑誌へ矢印を引きます。そして、各対象誌の規模を表現するために枠の面積は、年間掲載論文数に対応させて作図します。2ステップ・マップの特徴は、利用者のニーズを反映した質の高い雑誌購入の選定資料として役立ちます。また、研究者が投稿雑誌

AOKI Manabu

順天堂大学図書館

aokim@med.juntendo.ac.jp

を選択する際の有用な資料として、特定分野でのコア・ジャーナルとそのサブ・グループの特定など視覚的に科学コミュニケーションの構造を明らかにすることができます。

II. 雑誌編集の基礎知識

私は、皆さんもご存知の「医学図書館」という雑誌の編集に10年間携わってきました。ここでは、その経験を基に雑誌編集にかかわるキーワードを箇条書きにして解説していきたいと思えます。

1. 論文発表の倫理

オーサーシップは、協同研究に伴う著者の順番や儀礼、贈与、研究者仲間というだけで論文の著者になるなど多くの問題点が指摘されています。重複出版は、特定の雑誌に投稿した論文の採否が決まる前に、他の雑誌へ投稿した場合などに発生しやすいと言われています。その他論文発表の倫理としては、多重出版、平行出版、論文の撤回などがしばしば問題にあげられます。これらの問題に関しては、Uniform Requirements for Manuscripts Submitted Biomedical Journals (生物医学雑誌への統一投稿規定:バンクーバースタイル)に詳細に記載されておりますのでそれらをお読み下さい⁶⁻⁸⁾。

また、論文の捏造や偽造、盗用といった科学者の不正行為に関しては、新刊書の「科学者の不正行為—捏造・偽造・盗用—」を推薦します⁹⁾。

2. 著作権

著作権に関する最近のニュースとしては、平成14年7月5日の日本経済新聞1面で「複写使用料の値上げ」に関する記事が大きく取り上げられています¹⁰⁾。現在我が国には、3つの複写権管理団体が設立されており、複写使用を巡る権利関係は今だ流動的な状態にあります。最近では雑誌「薬学図書館」が文献複写の著作権をめぐる問題の最新情報の特集として取り上げています¹¹⁾。そして、国公私立大学図書館の著

作権問題拡大ワーキンググループは、インターネット上に「大学図書館における著作権問題Q&A」というタイトルで52ページにもわたり85問にも及ぶ質問事項とその回答集をPDFファイルで提供しています。著作権問題については、これらの資料をご覧ください。

3. 投稿規定の改訂

投稿規定は、時代のニーズと共に常に見直し改訂していくことが望まれます。最近では、電子文献やURL、コンピュータファイルなどの電子資料を参考文献として、どのように記載するのかが問われていました。それらの記載方法は徐々に統一されてきています。その他には、雑誌に掲載された自分の原稿をできるだけ早く自分のホームページに掲載したいとの要望も増えてきています。このような掲載記事の転載については、安藤が詳しく解説しています¹²⁾。多くの自然科学雑誌の投稿規定は、今日網羅的にインターネット上でみることができます¹³⁾。国内の学術雑誌の投稿規定については、サンメディア社のホームページからリンクがはられています¹⁴⁾。

4. 編集マニュアルの作成

雑誌は継続して発行されていくものです。しかし、雑誌の編集委員はその雑誌の編集を永久に担当することはできません。編集委員の交替への対処としては、雑誌の継続性を考慮した編集マニュアルの作成が望まれます。編集マニュアルは編集委員会での決定事項を盛り込みながら改訂し、常に編集上のパイプとしてまとめておきたいものです。

5. 執筆者への原稿依頼

執筆者への原稿依頼は、各記事欄に見合った依頼書をフォーマットにして準備しておくとお便利です。原稿料については、執筆料内規を定めておくことも必要でしょう。

6. 特集テーマの企画

今日では、雑誌の目玉として特集記事が頻繁に組まれています。読者から望まれる時代を反映した特集記事のテーマは、雑誌の大きな魅力の一つにもなっています。特集テーマの企画は年間のスケジュールをたて、少なくとも前年の秋口には決定しておきたいものです。その他には、突発的な記事が入稿された場合にも対処できるよう余裕を持った目次の構成も必要でしょう。

7. 読者層の拡大方法

雑誌の編集に携わると、自らが編集した雑誌を一冊でも多くの読者に読んでもらいたいと思うものです。読者層の拡大方法の一つとしては、見本誌の配布などにより異分野の読者層の開拓があげられます。また、読まれる紙面作成の工夫としては、時々読者へのアンケート調査を実施し、その結果をふまえ、従来の編集方針を定期的に省みることも必要でしょう。

8. 執筆者の獲得

執筆者の獲得には、所属分野の雑誌を常に目を通すことなどをして執筆者の開拓をはかりたいものです。そのためには、人的ネットワークの構築や情報に関するレーダー網の機能を高めておくことも必要でしょう。そして、原稿の獲得には研究会や研修会の開催が最も近道であるといえます。それは発表原稿が、雑誌原稿の前段階の資料であるからです。

9. 記事区分の選定

雑誌の編集上多々ある事例として、投稿原稿の記事区分の選定が問題になります。執筆者は原著論文として投稿したにもかかわらず、掲載誌を見てみると事例報告として取り扱われており、納得できないというものです。このような問題に対処するためには、投稿原稿の記事区分を選定する目安として編集のガイドラインを準備しておくことも必要でしょう。

10. レフェリー (論文審査)

原稿は、レフェリーというフィルターを通して、雑誌の内容を一定レベルに保っていく必要があります。編集者は投稿原稿にどこまで踏み込んで校正していくかなど問われるところです。レフェリーの実施にあたっては、事前に論文審査フォームを作成しておくことも必要でしょう。レフェリーシステムについての詳細については、「生命科学論文投稿ガイド」¹⁰⁾をご覧ください。今日の巨大化した科学コミュニケーションの世界では、伝統的な評価システムであるレフェリーシステムでは不正行為に対応できない状況になっています。アメリカでは、科学研究費の不正行為を監視、処罰する研究公正局(Office of Research Integrity)という機関が設立されています。このように論文審査には今だ難題が山積みされています。しかし、原稿の最終的なレフェリーは読者であり、あなたが執筆した論文の一番の理解者も読者であるといえましょう。

参考文献

- 1) 緑川信之, 倉田敬子, 真弓育子他. 図書館・情報学のための調査研究法. 東京: 勁草書房; 1986.
- 2) 廣谷速人. 論文のレトリック: 医学論文の Tips & Pitfalls. 改訂第2版. 東京: 南江堂; 2001.
- 3) 青木 仕. 神経科学分野におけるコア・ジャーナルの分析. 医学図書館 1997;44(4):473-82.
- 4) Narin F., Pinski G., Gee HH. Structure of the biomedical literature. J Am Soc Inf Sci 1976;27(1):25-45.
- 5) 茂木富美子, 重永敦訳. 生物医学雑誌投稿に関する統一規定. あいみつく 1991;12(3):16-25 1992;13(1):38-9.
- 6) 吉田和彦, 山崎洋次. 生物医学雑誌に関する統一規定の改訂(1)(2). 医学のあゆみ 1998;186(11):812-4,872-9.

- 7) 医学雑誌編集者国際委員会. 生物医学雑誌への統一投稿規定①②. 医学のあゆみ 2002;201(10):790-8,862-7.
- 8) 「生物医学雑誌への統一投稿雑誌規程 2001年10月改訂版」(URM) [internet].
[hyyp://www.shiyaku.co.jp/magazines/ayumi.html](http://www.shiyaku.co.jp/magazines/ayumi.html) [accessed 2002-7-27]
- 9) 山崎茂明. 科学者の不正行為—捏造・偽造・盗用—. 東京:丸善; 2002.
- 10) 論文・専門書複写使用料大幅上げ. 日本経済新聞 2002年7月5日;朝刊;第1面.
- 11) 特集:文献複写の著作権をめぐる問題. 薬学図書館 2002;47(2):111-49.
- 12) 安藤越代. 「医学図書館」誌掲載記事の転載. 医学図書館 2001;48(4):428.
- 13) Instructions to Authors in the Health Sciences [internet].
<http://www.mco.edu/lib/instr/libinsta.html> [accessed 2002-7-27]
- 14) 学術雑誌投稿規定集 [internet].
<http://www.sunmedia.co.jp/kitei.html> [accessed 2002-7-27]
- 15) 山崎茂明. 生命科学論文投稿ガイド. 東京:中外医学社; 1996.